

資料3

平成25年3月12日
気象庁第125回火山噴火予知連絡会
霧島山（新燃岳）の火山活動に関する検討結果

新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止した状態が続いています。しかし、現在でも火口には高温の溶岩が溜まっており、火口直下の火山性地震がやや増加していることから、小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

霧島山（新燃岳）では、平成23年9月7日の噴火以降、噴火は発生していません。

新燃岳火口直下の火山性地震は昨年5月頃から減少していましたが、3月5日頃からやや増加しています。1日あたりの二酸化硫黄の放出量は、昨年7月以降、数10トン未満で検出限界に近い状態で経過しています。火口に蓄積した溶岩の状態にも特段の変化は認められません。

GPS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張は、平成23年12月以降鈍化・停滞しています。他の領域の地殻変動データにも特段の変化は認められていません。霧島山周辺の地震活動にも、顕著な変化は認められません。

以上のように、マグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止した状態が続いています。しかし、現在でも火口には高温の溶岩が溜まっており、火口直下の火山性地震もやや増加していることから、小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。今後は、火口及び火口近傍の活動を注意深く見ていく必要があります。

また、地下からのマグマの供給が再開すれば、本格的な噴火が再開する可能性は残っています。

引き続き、新燃岳火口周辺では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

気象台の発表する噴火警報や霧島山上空の風情報に留意してください。

降雨時には泥石流や土石流に警戒してください。降雨に関する情報に留意してください。